

三本木農業高校、馬術部 ～盲目の馬と少女の実話～

2008(平成20)年8月19日鑑賞〈東映試写室〉

★★★



監督＝佐々部清／原案＝橋内美佳『私、コスモの目になる！』（主婦と生活社刊）／出演＝長
渕文音／柳葉敏郎／松方弘樹／原日出子／黒谷友香／奥村知史／森田彩華／西原亜希／小林
裕吉／吹越満（東映配給／2008年日本映画／117分）

……タイトルどおり、予想どおりのストーリー展開はあまりにもまっとうすぎ……？「カエルの子」長渕文音を支える脇役陣もいい人ばかりで、これも少し現実離れ……？ 2つの感動シーンはあるものの、これでは良質なテレビドラマと同じでは……。



佐々部清監督の最新作品だが……

私は佐々部清監督作品を『陽はまた昇る』（02年）以外全て観ているが、星5つは、『カーテンコール』（『シネマルーム7』296頁参照）、『夕風の街 桜の国』（07年）（『シネマルーム15』261頁参照）、『チルソクの夏』（03年）（『シネマルーム6』63頁参照）の3作で、星4つは『半落ち』（03年）（『シネマルーム4』230頁参照）、『四日間の奇蹟』（05年）（『シネマルーム8』173頁参照）の2作。そして星3つが、『出口のない海』（06年）（『シネマルーム12』223頁参照）と『結婚しようよ』（08年）（『シネマルーム18』289頁参照）の2作となっている。

しかして、彼の最新作『三本木農業高校、馬術部』は残念ながら星3つ。それはなぜ……？



やっぱりカエルの子はカエル！

この映画の一方の主人公は数頭のお馬さんたち。とりわけ、競走馬を引退した後、「前部ブドウ膜炎」の発病によって視力が低下し、ほとんど目が見えなくなったメス馬、タカラコスモス（通称コスモ）がそれ。

他方、本来の主人公は、コスモの目になるという三本木農業高校馬術部2年生の香

苗。そして、香苗を演じるのは映画初出演となった19歳の長渕文音だ。もっともそう聞いても、多くの人が「それは一体誰？」と思うはず。

しかし、その名字に着目すれば、ひょっとしてあの歌手長渕剛の娘……？ というより長渕剛と志穂美悦子の愛娘……？ なるほど、いわれれば……。やっぱりカエルの子はカエル！

あまりにも、まっとうすぎ……？

「世界のキタノ」こと北野武監督の最新作『アキレスと亀』(08年)は、『TAKESHIS'』(05年)と『監督・ばんざい!』(07年)の反省の上に(?)、時系列に沿ったえらくまっとうなつくりの映画だった。そんな北野武監督に対して、佐々部清監督の映画はもともと正統派だから、まっとうなものが多い。彼の大好きな吉田拓郎へのオマージュを捧げた『結婚しようよ』もそうだったが、『三本木農業高校、馬術部』はそのまっとう路線をとことん貫いた感じ。つまり「盲目の馬と、ひとりの女子高生の絆が、今、奇跡を起こす!」というテーマを、ややこしいテクニックを一切使わず、粛々と描いた今どき珍しい、タイトルどおりの文科省推薦の映画……？

女優長渕文音のデビュー作としてはそんな映画が最適かもしれないが、映画としてのダイナミック性はイマイチで、良質なテレビドラマを観ている感じ。私は奇をてらった映画はあまり好きではないが、こりゃ、あまりにもまっとうすぎるのでは……？

3人の脇役は？ 黒谷友香の魅力は封印？

この映画はあくまで長渕文音演ずる香苗とコスモが主役で、その他は全てその引き立て役。佐々部清監督をはじめとするスタッフもキャスト陣も、はっきりそう割り切っていることがよくわかる……？

寡黙だが人間味あふれる人情家というキャラがよく似合うのが、柳葉敏郎演じる馬術部顧問の高賀博先生。悩み多い年頃の高校生を、馬術を通して導いていく教師としての手腕は見事という他ない。また、校長役を『結婚しようよ』に続いて佐々部ファミリーとなることを希望した松方弘樹が演じているが、これまた今の時代では到底考えられない理想的な校長。

意外だったのは、北里大学の獣医坂口康子役に『TANKA 短歌』(06年)で官能的な美しさを魅せてくれた(『シネマルーム12』272頁参照)美人女優の黒谷友香を起

用したこと。坂口先生も節目節目でそれなりの役割を果たすのだが、あんな美人でスタイルのいい獣医さんで本当にいるの……？ そう思うと、その魅力を封印してしまった女獣医役はちょっともったいない……？

それはともかく、香苗とコスモは今どきこんな理想的なキャラがいるの、と思われるようなこの3人の脇役によって支えられている。初主演の長瀨文音は、そんな周りの配慮をしっかりと自覚して次のステップにつなげなければ……。

2つの感動シーンをじっくりと

この映画には人為的につくられた感動シーンと人為性は不可能な感動シーンが2つある。まず前半に訪れる感動シーンは、コスモの出産シーン。私は「馬の種つけ」を1度見たことがあるが、そりゃすごいもの。それと同じように馬の出産シーンもすごいものだが、同時に感動的！ しかしこれは、人為性は不可能な、1回コッキリの撮り直しのきかない撮影だから大変。

2つ目の感動シーンはクライマックスに訪れるが、これは明らかに人為的につくられたもの。今やほとんど失明状態に近いコスモに乗って、香苗が高校生活最後の馬術大会に出場したいと言い出したのには古賀先生もビックリしたが、結果的にはそれが実現することに。そして、今日はその大会の日。古賀先生の励ましを受けてコスモに乗った香苗は障害越えに3度トライしたが、結局コスモはそれを飛び越える勇気を見せなかったため、規定により失格。

オリンピックならこれにておしまいが、そこは青森県の片田舎にある三本木農業高校で開催された馬術大会のこと。前年卒業した馬術部先輩の園田帆乃夏（西原亜希）の「コスモ！ コスモ！」のコールが始まると、まず観客席で見守っていた香苗の父親隆（吹越満）がそれに呼応。そして次第に観客席からは「コスモ！ コスモ！」「香苗！ 香苗！」の大合唱が。そんな大合唱の中起きた奇跡とは……？ それが佐々部清監督の手によって人為的につくり出された、この映画最大の感動シーンだ。

2008(平成20)年8月20日記